

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-16368
(P2019-16368A)

(43) 公開日 平成31年1月31日(2019.1.31)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
G06Q 20/20 (2012.01)	G06Q 20/20 370	3E142
G07G 1/14 (2006.01)	G07G 1/14	5L055

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 24 頁)

(21) 出願番号	特願2018-158662 (P2018-158662)	(71) 出願人	000003562 東芝テック株式会社 東京都品川区大崎一丁目11番1号
(22) 出願日	平成30年8月27日 (2018. 8. 27)	(74) 代理人	110002147 特許業務法人酒井国際特許事務所
(62) 分割の表示	特願2017-57022 (P2017-57022) の分割	(72) 発明者	岡田 徹 東京都品川区大崎一丁目11番1号 東芝 テック株式会社内
原出願日	平成26年6月10日 (2014. 6. 10)	Fターム(参考)	3E142 CA17 DA20 EA04 GA16 HA14 JA03 5L055 AA22 AA27 AA32 AA35 AA42

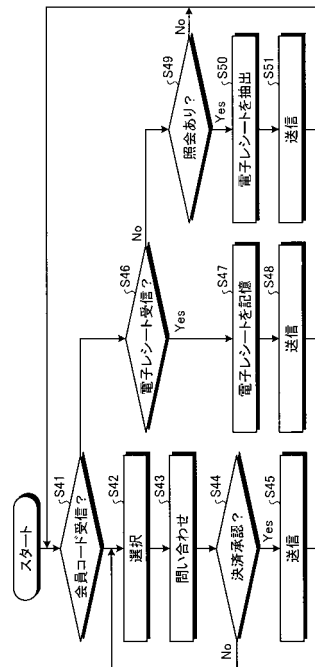
(54) 【発明の名称】 電子レシートシステムおよび電子レシート管理方法

(57) 【要約】

【課題】 決済処理の高速化を図ることができる電子レシート管理サーバおよびプログラムを提供する。

【解決手段】 商品取引データ処理に係る決済処理に際して消費者の受取先コードを受信するコード受信手段と、受信した受取先コードに予め対応付けられている決済手段を選択する選択手段と、選択した決済手段に対応する所定の決済サーバに決済の承認を問い合わせる問い合わせ手段と、決済が承認された場合、決済承認された旨を当該会員コードの送信先に送信する送信手段と、決済承認された決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示すレシートデータに関連する電子レシート情報を受信する受信手段と、受信手段により受信した電子レシート情報を記憶する記憶手段と、受取先コードに対応付けられた情報処理装置に対し、当該受取先コードに対応付けられた電子レシート情報を出力する電子レシート出力手段と、を備える。

【選択図】 図 1 2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

商品取引データ処理に係る決済処理に際して受取先コードを受信するコード受信手段と、

受信した前記受取先コードに予め対応付けられている決済手段を選択する選択手段と、
選択した前記決済手段に対応する所定の決済サーバに決済の承認を問い合わせる問い合わせ手段と、

前記決済サーバに問い合わせた結果として決済が承認された場合、決済承認された旨を当該受取先コードの送信先に送信する送信手段と、

決済承認された前記決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示すレシートデータに関連する電子レシート情報を受信する受信手段と、

前記受信手段により受信した前記電子レシート情報を記憶する記憶手段と、

前記受取先コードに対応付けられた情報処理装置に対し、当該受取先コードに対応付けられた前記電子レシート情報を出力する電子レシート出力手段と、
を備えることを特徴とする電子レシート管理サーバ。

【請求項 2】

前記受信手段は、前記決済手段による前記決済処理の証である決済伝票データも前記電子レシート情報として受信する、

ことを特徴とする請求項 1 記載の電子レシート管理サーバ。

【請求項 3】

前記電子レシート出力手段は、同一取引に係る前記レシートデータと前記決済伝票データとを単一の前記電子レシート情報として出力する、

ことを特徴とする請求項 2 記載の電子レシート管理サーバ。

【請求項 4】

前記電子レシート出力手段は、同一取引に係る前記レシートデータと前記決済伝票データとをそれぞれ別の前記電子レシート情報として出力する、

ことを特徴とする請求項 2 記載の電子レシート管理サーバ。

【請求項 5】

前記決済処理に用いる少なくとも 1 以上の前記決済手段について優先順位を付して前記会員コードに対応付けて記憶する記憶部を更に備える、

ことを特徴とする請求項 1 ないし 4 の何れか一記載の電子レシート管理サーバ。

【請求項 6】

前記コード受信手段は、取引先コードと前記受取先コードとを受信し、

前記選択手段は、受信した前記取引先コードに予め対応付けられている決済手段を選択する、

ことを特徴とする請求項 1 ないし 5 の何れか一記載の電子レシート管理サーバ。

【請求項 7】

コンピュータを、

商品取引データ処理に係る決済処理に際して受取先コードを受信するコード受信手段と、

受信した前記受取先コードに予め対応付けられている決済手段を選択する選択手段と、
選択した前記決済手段に対応する所定の決済サーバに決済の承認を問い合わせる問い合わせ手段と、

前記決済サーバに問い合わせた結果として決済が承認された場合、決済承認された旨を当該受取先コードの送信先に送信する送信手段と、

決済承認された前記決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示すレシートデータに関連する電子レシート情報を受信する受信手段と、

前記受信手段により受信した前記電子レシート情報を記憶する記憶手段と、

前記受取先コードに対応付けられた情報処理装置に対し、当該受取先コードに対応付けられた前記電子レシート情報を出力する電子レシート出力手段と、

を備えることを特徴とする電子レシート管理サーバ。

ことを特徴とする請求項 1 ないし 5 の何れか一記載の電子レシート管理サーバ。

として機能させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明の実施形態は、電子レシート管理サーバおよびプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、商品決済時に店舗から買物客に渡されるレシートあるいは領収書を電子的に買物客の携帯端末等に受け渡す電子レシートという仕組みが知られている。

【0003】

このようにレシートを電子データにすることによって、家計簿も電子的に自動的に簿記ができるなど買物客にとって有益である。また、電子レシートを導入することにより、レシート用紙の消費を減らすことができるため、導入店舗にとっても有益である。

【0004】

一方、多くの店舗においては、クレジットカードや電子マネーカードなどを用いた現金以外の決済システムが導入されている。このような決済システムを導入することにより、店舗側および買物客側の双方において現金を取り扱わなくて済むので、決済処理の高速化が可能となっている。また、近年においては、クレジット決済や電子マネー決済などの決済種別毎に複数の決済用媒体（クレジットカードや電子マネーカードなど）を所持する買物客も多くなっている。

【0005】

しかしながら、上述のように多種多様の決済用媒体（クレジットカードや電子マネーカードなど）を所持する買物客は、決済に用いる決済用媒体の選択に迷うことも多く、そのような場合には結果的に決済処理の高速化が図れなくなってしまうという問題がある。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明が解決しようとする課題は、決済処理の高速化を図ることができる電子レシート管理サーバおよびプログラムを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

実施形態の電子レシート管理サーバは、商品取引データ処理に係る決済処理に際して受取先コードを受信するコード受信手段と、受信した前記受取先コードに予め対応付けられている決済手段を選択する選択手段と、選択した前記決済手段に対応する所定の決済サーバに決済の承認を問い合わせる問い合わせ手段と、前記決済サーバに問い合わせた結果として決済が承認された場合、決済承認された旨を当該受取先コードの送信先に送信する送信手段と、決済承認された前記決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示すレシートデータに関連する電子レシート情報を受信する受信手段と、前記受信手段により受信した前記電子レシート情報を記憶する記憶手段と、前記受取先コードに対応付けられた情報処理装置に対し、当該受取先コードに対応付けられた前記電子レシート情報を入力する電子レシート出力手段と、を備える。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】図1は、実施形態にかかる電子レシートシステムの構成全体を示す構成図である。

【図2】図2は、POS端末の要部構成を示すブロック図である。

【図3】図3は、電子レシートサーバの要部構成を示すブロック図である。

【図4】図4は、電子レシート管理サーバの要部構成を示すブロック図である。

【図5】図5は、携帯端末の要部構成を示すブロック図である。

【図6】図6は、POS端末における電子レシート処理にかかる機能ブロック図である。

10

20

30

40

50

【図 7】図 7 は、レシートデータの一例を模式的に示す図である。

【図 8】図 8 は、電子レシートの一例を模式的に示す図である。

【図 9】図 9 は、POS 端末における電子レシート処理の流れを示すフローチャートである。

【図 10】図 10 は、電子レシートサーバにおける電子レシート管理処理及び情報送信処理の流れを示すフローチャートである。

【図 11】図 11 は、電子レシート管理サーバにおける電子レシート管理処理及び商品情報送信処理にかかる機能ブロック図である。

【図 12】図 12 は、電子レシート管理サーバにおける電子レシート管理処理及び商品情報送信処理の流れを示すフローチャートである。

10

【図 13】図 13 は、携帯端末における電子レシート受け取り処理及び電子レシート閲覧処理にかかる機能ブロック図である。

【図 14】図 14 は、携帯端末における電子レシート受け取り処理及び電子レシート閲覧処理の流れを示すフローチャートである。

【図 15】図 15 は、携帯端末の表示部に表示された電子レシートの一例を示す図である。

【図 16】図 16 は、携帯端末の表示部に表示された電子レシートの一例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

20

以下、本実施の一形態を図面に基づいて説明する。

【0010】

図 1 は、実施形態にかかる電子レシートシステムの構成全体を示す構成図である。図 1 に示すように、電子レシートシステムは、POS (Point of Sales) 端末 1 と、ストアサーバ 2 と、電子レシートサーバ 3 と、電子レシート管理サーバ 4 と、携帯端末 7 とを有する。

【0011】

POS 端末 1 とストアサーバ 2 とは、店舗 P 1 内に設けられる。POS 端末 1 とストアサーバ 2 とは、LAN (Local Area Network) 等の店舗内ネットワーク N 1 を介して通信可能に接続される。また、POS 端末 1 及びストアサーバ 2 は、店舗内ネットワーク N 1 に接続されたルータ等のネットワーク機器 (図示せず) を介して、店舗 P 1 と本部 P 2 とを繋ぐネットワーク N 2 に接続することが可能である。ここで、ネットワーク N 2 は、例えば、インターネットや VPN (Virtual Private Network) 等の専用線である。

30

【0012】

POS 端末 1 は、商品販売データ処理 (商品取引データ処理) を実行する商品販売データ処理装置である。POS 端末 1 は、決済対象の商品の取引内容を含むレシートデータを生成し、当該レシートデータを後述するプリンタ 13 で印字することで紙レシートを出力する。また、POS 端末 1 は、レシートデータのデータ形式を変換した電子レシートを、ネットワーク N 2 を介して電子レシートサーバ 3 に出力 (送信) する。電子レシートの送信方法は特に問わず、HTTP や HTTPS 等の汎用プロトコルを用いてもよい。なお、店舗 P 1 に設けられる POS 端末 1 の個数は特に問わず、複数台であってもよい。

40

【0013】

ストアサーバ 2 は、POS 端末 1 で行われる商品販売データ処理等の管理を統括的に行う。例えば、ストアサーバ 2 は、POS 端末 1 の商品販売データ処理で生成された商品販売データを記憶・管理したり、商品販売データ処理に用いる商品データファイル等を記憶・管理する。

【0014】

なお、本実施形態では、POS 端末 1 が電子レシートを出力する構成を説明するが、これに限らず、POS 端末 1 で生成されたレシートデータを、ストアサーバ 2 や図示しない変換装置がデータ形式を変換することで、電子レシートとして電子レシートサーバ 3 に出

50

力する構成としてもよい。

【0015】

電子レシートサーバ3は、店舗またはチェーン店舗（以下、店舗という）を運営する企業の本部P2に設けられており、店舗を運営する企業毎のレシートデータを管理する企業用のレシート管理サーバとして機能する。電子レシートサーバ3は、例えば、店舗を運営する企業の売上管理、売上分析、在庫管理などの機能を有する。

【0016】

また、電子レシートサーバ3は、POS端末1から送信された電子レシートを、ネットワークN2を介して受信する。また、電子レシートサーバ3は、受信した電子レシートを、本部P2と電子レシートセンターP3とを繋ぐネットワークN3を介して、電子レシート管理サーバ4に送信する。

10

【0017】

ここで、ネットワークN3は、例えば、インターネットやVPN等の専用線である。また、電子レシートの送信方法は特に問わず、HTTPやHTTPS等の汎用プロトコルを用いてもよい。

【0018】

電子レシート管理サーバ4は、電子レシートセンターP3に設けられる。電子レシートセンターP3は、例えば、電子レシートサーバ3でレシートデータを管理する企業以外の第三者機関である。なお、電子レシートサーバ3についても第三者機関等が管理してもよい。

20

【0019】

電子レシート管理サーバ4は、店舗を運営する各種企業のレシートデータを一括に管理する顧客用レシート管理サーバとして機能する。電子レシート管理サーバ4は、後述する手順等により会員登録を行った各顧客（会員）の氏名や会員コード、電子レシートの送信先となる携帯端末7の送信先情報（例えばメールアドレス）等の会員データを、データベースDBに保持された会員マスタに記憶・管理する。なお、電子レシート管理サーバ4とは別に、会員データの記憶・管理を行う会員管理サーバ等を設ける構成としてもよい。

【0020】

また、電子レシート管理サーバ4は、電子レシートサーバ3から送信された電子レシートを、ネットワークN3を介して受信し、この電子レシートをデータベースDBに保持された後述する電子レシート管理領域43aに記憶・管理する。より詳細には、電子レシートは、商品の取引内容（商品販売データ）の他、会員コード等の要素を含み、対応する会員の会員データと対応付けて管理される。

30

【0021】

また、電子レシート管理サーバ4は、データベースDBに電子レシートを記憶すると、この電子レシートの会員コードに対応付けされた送信先情報を参照することで、送信先（携帯端末7）を特定する。そして、電子レシート管理サーバ4は、後述するネットワークN5を介して、データベースDBに記憶した電子レシートをその送信先に送信する。

【0022】

また、電子レシート管理サーバ4は、後述するネットワークN5を介して接続される携帯端末7から、会員コードを指定する電子レシート照会を受け付けると、当該会員コードに対応する電子レシートをデータベースDBから抽出し、携帯端末7に送信する。

40

【0023】

このような電子レシート管理サーバ4は、ネットワークN4を介して、クレジット会社、銀行や電子マネー会社などである決済センターP4に設けられる決済サーバ5に接続されている。ここで、ネットワークN4は、例えば、CAFIS（Credit And Finance Information Switching System）やVPN等の専用線である。なお、本実施形態においては、決済センターP4に設けられる決済サーバ5は、1または複数設けられている。電子レシート管理サーバ4は、後述する手法により決済処理の際に一の決済サーバ5を選択する。

50

【 0 0 2 4 】

携帯端末 7 は、本システムの利用者（顧客）が使用する、例えばスマートフォン、携帯電話機、PDA（Personal Digital Assistant）、タブレット型コンピュータ等の端末装置である。携帯端末 7 は、ネットワーク N 5 上で提供される各種情報を閲覧するための Web ブラウザ等のアプリケーションを実装する。なお、携帯端末 7 に代えて、PC 等の端末装置を適用してもよい。

【 0 0 2 5 】

携帯端末 7 は、ネットワーク N 5 を介して電子レシート管理サーバ 4 にアクセスすることで、本システムへの会員登録を行う。ここで、ネットワーク N 5 は、インターネットや、各種公衆網である。

10

【 0 0 2 6 】

ところで、本システムでの顧客の会員登録は、例えば次のような手順で行われる。顧客は、携帯端末 7 からネットワーク N 5 を介して電子レシート管理サーバ 4 に対して空メールを送信する。電子レシート管理サーバ 4 は、受信したメールアドレスに会員登録のためのページを示す URL（Uniform Resource Locator）を送信する。顧客は、携帯端末 7 から会員登録のためのページを示す URL にアクセスして会員登録に必要な事項（氏名、送信先情報等）を入力させる入力画面を表示させる。顧客による必要事項の入力終了後、電子レシート管理サーバ 4 は、会員マスタに対する会員登録を実行する。その後、電子レシート管理サーバ 4 は、携帯端末 7 に対して会員コード（顧客コード）及びパスワードを含む会員登録完了メールを配信する。これにより、会員登録が終了する。

20

【 0 0 2 7 】

上述のような会員登録後、携帯端末 7 は、顧客の会員コードをバーコードや二次元コード等のコードシンボルとして表示部 7 3（図 5 参照）に表示する。顧客は、店舗 P 1 における取引決済時に店員に対して携帯端末 7 に表示されたコードシンボルを提示する。店員は、携帯端末 7 に表示されたコードシンボルを POS 端末 1 に接続されたコードスキャナ 1 5（図 2 参照）で読み取る。これにより、POS 端末 1 における商品販売データ処理による決済後に生成されるレシートデータに対して顧客の会員コードを対応付けることが可能になっている。

【 0 0 2 8 】

また、携帯端末 7 は、POS 端末 1 での決済（取引）後、電子レシート管理サーバ 4 から送信される当該取引の電子レシートを、ネットワーク N 5 を介して受信する。会員コードを指定する電子レシート照会を、ネットワーク N 5 を介して電子レシート管理サーバ 4 に送信することで、当該会員の電子レシートを電子レシート管理サーバ 4 から受信する。また、携帯端末 7 は、受信した電子レシートを、表示部 7 3 に表示する。

30

【 0 0 2 9 】

係る構成の電子レシートシステムにおいては、店舗 P 1 の POS 端末 1 で商品販売データ処理が行なわれて生成された取引（決済）の内容を示す電子レシート（レシートデータ）が、電子レシートサーバ 3 を介して電子レシート管理サーバ 4 に伝送され、Web 上に公開される。したがって、Web ブラウザを実装してなる携帯端末 7 は、URL（Uniform Resource Locator）を指定することにより、Web 上に公開されたレシートデータを携帯端末 7 にダウンロードして Web ブラウザで閲覧することができる。なお、携帯端末 7 にレシートデータを閲覧するためのアプリケーションをインストールして閲覧するようにしてもよい。

40

【 0 0 3 0 】

次に、本実施形態の電子レシートシステムを構築する主要な装置の構成について説明する。

【 0 0 3 1 】

まず、商品販売データ処理装置である POS 端末 1 について説明する。図 2 は、POS 端末 1 の構成を示すブロック図である。図 2 に示すように、POS 端末 1 は、各種演算や POS 端末 1 の各部を統括的に制御する制御部 1 1 を備えている。制御部 1 1 は、CPU

50

(Central Processing Unit)、各種プログラムやデータを記憶するROM (Read Only Memory)、各種プログラムを一時的に記憶したり各種データを書き換え自在に記憶するRAM (Random Access Memory)、現在の日時を計時するRTC (Real Time Clock) 部等によって構成されるコンピュータである。

【0032】

制御部11は、バス18を介して操作部12、プリンタ13、表示部14及びコードスキャナ15に接続されている。

【0033】

操作部12は、オペレータが操作入力を行うための各種の操作キーを有している。操作キーとしては、例えば、数値を入力するための置数キー、所定の項目を選択するためのカーソルキーや選択決定キー、取引における売上登録が行われる商品の合計出力を指示する小計キー、一取引の締め処理を行って代金を決済することを宣言する締めキー等が設けられている。

10

【0034】

プリンタ13は、レシートやジャーナル等の印字を行うプリンタ装置である。プリンタ13は、印字の対象となるロール紙等の用紙を切断するカット機構を具備し(図示せず)、後述するカットコマンドに従い用紙を切断する。

【0035】

表示部14は、例えば液晶ディスプレイ等であり、販売登録された商品の品名、価格、決済が宣言された一取引の合計金額、釣銭額等の各種情報を表示する。表示部14は、キャッシュ向けに各種情報を表示するオペレータ用ディスプレイ14aと、顧客向けに各種情報を表示する客用ディスプレイ14bとを備える。なお、表示部14をタッチパネル構成としてもよく、この場合、タッチパネルは操作部12として機能する。

20

【0036】

コードスキャナ15は、バーコードや二次元コード等のコードシンボルを光学的に読み取るスキャナ装置である。コードスキャナ15は、例えば、商品に付されたコードシンボルや、携帯端末7に表示されたコードシンボル等を読み取り、当該コードシンボルに保持された情報を制御部11に出力する。なお、商品に付されたコードシンボルには、その商品を特定するための商品コード等が保持されているとする。また、携帯端末7に表示されるコードシンボルには、その携帯端末7を携帯する顧客を特定するための会員コード(顧客コード)等が保持されているとする。

30

【0037】

また、制御部11は、バス18を介して通信I/F(インターフェース)16に接続されており、この通信I/F16を介して店舗内ネットワークN1やネットワークN2に接続することが可能となっている。

【0038】

また、制御部11は、バス18を介して、記憶部17に接続されている。記憶部17は、例えばHDD(Hard Disk Drive)やSSD(Solid State Drive)等の補助記憶装置である。記憶部17は、商品販売データ処理を含む各種のPOS業務を実行するためのプログラムを記憶する。また、記憶部17は、各商品の商品名、商品コード及び単価等の商品データを格納した商品データファイル等の商品販売データ処理に係る各種データファイルを記憶する。また、記憶部17は、商品販売データ処理やレシートデータに係る処理を行うためのレシートデータ処理プログラム17aを記憶する。

40

【0039】

また、記憶部17は、自己のPOS端末1を他のPOS端末1と識別するためのPOSナンバー、企業コード(店舗を運営する企業の識別コード:取引先コード)、業種・業態コード、当該POS端末1が設置される店舗P1を示す店舗コード等を、識別コード管理領域17bに記憶する。ここで、業種・業態コードは、例えば、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、百貨店、薬局、レストラン、飲食店などとして、店舗の業種・業態を区別するコード(分類コード)である。なお、このような業種・業態は、ユーザの好み

50

によって任意に変更可能である。また、企業コード（店舗を運営する企業の識別コード）、業種・業態コードについては、電子レシートサーバ3に登録されていてもよい。

【0040】

また、記憶部17は、非構造化形式のレシートデータを、構造化形式のレシートデータ（以下、電子レシートという）に変換する際の、変換規則を記述したレシートデータスキーマ17cを記憶する。

【0041】

次に、企業用のレシート管理サーバとして機能する電子レシートサーバ3の構成を、図3のブロック図を用いて説明する。電子レシートサーバ3は、各種演算や電子レシートサーバ3の各部を統括的に制御する制御部31を備えている。制御部31は、CPU、各種プログラムやデータを記憶するROM、各種プログラムを一時的に記憶したり各種データを書き換え自在に記憶するRAM、現在の日時を計時するRTC部等によって構成されるコンピュータである。

10

【0042】

制御部31は、バス34に接続された通信I/F32を介して、ネットワークN2やネットワークN3に接続することが可能となっている。また、制御部31は、バス34を介して記憶部33に接続されている。

【0043】

記憶部33は、店舗を運営する企業毎の電子レシートを電子レシート管理領域33aに記憶する。電子レシートは、企業コード（店舗を運営する企業の識別コード）、業種・業態コード、店舗コード、買物客の会員コード、POS端末1のPOSナンバー、レシートナンバー、商品販売データなどを含む。

20

【0044】

また、記憶部33は、電子レシートを電子レシート管理領域33aで管理するための電子レシート管理プログラム33bを記憶する。また、記憶部33は、電子レシート管理領域33aに管理されているレシートデータを、電子レシート管理サーバ4へ送信するための情報送信プログラム33cを記憶する。

【0045】

次に、顧客用レシート管理サーバとして機能する電子レシート管理サーバ4の構成を、図4のブロック図を用いて説明する。図4に示すように、電子レシート管理サーバ4は、各種演算や電子レシート管理サーバ4の各部を統括的に制御する制御部41を備えている。制御部41は、CPU、各種プログラムやデータを記憶するROM、各種プログラムを一時的に記憶したり各種データを書き換え自在に記憶するRAM、現在の日時を計時するRTC部等によって構成されるコンピュータである。

30

【0046】

制御部41は、バス44に接続された通信I/F42を介して、ネットワークN3及びネットワークN5に接続することが可能となっている。また、制御部41は、バス44に接続された通信I/F42を介して、ネットワークN4（CAFISなど）からクレジット会社や銀行等が備える決済サーバ5に接続し、決済サーバ5との間でデータ通信を可能とする。また、制御部41は、バス44を介して、記憶部43に接続されている。

40

【0047】

記憶部43には、店舗を運営する各種企業の電子レシートを一括に記憶するための電子レシート管理領域43aが確保されている。より詳細には、電子レシート管理領域43aは、店舗を運営する各種企業の電子レシートを会員毎に管理する。

【0048】

電子レシートは、会員コード、企業コード（店舗を運営する企業の識別コード）、店舗コード、POS端末1のPOSナンバー、レシートナンバー、商品販売データ（日時データを含む）などを含んでいる。したがって、例えば消費財メーカー等は、当該メーカーに関連する一意な購入商品の証明情報を、この電子レシートから特定条件の下（例えば、店舗を運営する特定の企業限定、特定の地域限定、特定の時間限定等）に取得することが可

50

能になる。なお、消費財メーカーは、食料品、飲料、衣類、化粧品、薬品、生活雑貨などのメーカーである。

【0049】

また、記憶部43には、会員マスタを記憶・管理するための会員マスタ管理領域43bが確保されている。また、会員マスタ管理領域43bに記憶される会員マスタは、会員コードに対応付けて会員の氏名、住所などを記憶する。

【0050】

加えて、会員マスタ管理領域43bに記憶される会員マスタは、POS端末1における商品販売データ処理に係る決済処理に用いる少なくとも1以上の決済手段を会員コードに対応付けて記憶する。決済手段とは、例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなどの決済種別毎の決済用媒体である。また、各決済種別には、会員コードに対応する消費者が予め設定した決済処理に用いる優先順位が付されている。

10

【0051】

また、会員マスタ管理領域43bに記憶される会員マスタは、決済手段（決済用媒体）ごとに、1または複数の媒体種別および識別コードを記憶する。媒体種別も決済手段に含まれる。媒体種別とは、例えば決済用媒体がクレジットカードである場合には、クレジット会社A、クレジット会社B、クレジット会社C、・・・である。また、各媒体種別には、会員コードに対応する消費者が予め設定した決済処理に用いる優先順位が付されている。

【0052】

また、記憶部43は、会員マスタを会員マスタ管理領域43bで管理するための会員管理プログラム（図示せず）の他、各企業の電子レシートを電子レシート管理領域43aで管理するための電子レシート管理プログラム43cを記憶する。また、記憶部43は、電子レシートを携帯端末7へ送信するための情報送信プログラム43dを記憶する。なお、電子レシート管理領域43aおよび会員マスタ管理領域43bは、図1で示したデータベースDBに対応する。

20

【0053】

次に、携帯端末7の構成を、図5のブロック図を用いて説明する。図5に示すように、携帯端末7は、各種演算や携帯端末7の各部を統括的に制御する制御部71を備えている。制御部71は、CPU、各種プログラムやデータを記憶するROM、各種プログラムを一時的に記憶したり各種データを書き換え自在に記憶するRAM、現在の日時を計時するRTC部等によって構成されるコンピュータである。

30

【0054】

制御部71は、バス76を介して操作部72及び表示部73に接続されている。操作部72は、ユーザ（顧客）が操作入力を行うための各種の操作キーや、ポインティングデバイスを有している。表示部73は、例えば液晶ディスプレイ等であり、後述する電子レシート等の各種情報を表示する。なお、表示部73をタッチパネル構成としてもよく、この場合、タッチパネルは操作部72として機能する。

【0055】

また、制御部71は、バス76を介して通信I/F74に接続されており、この通信I/F74を介してネットワークN5に接続することが可能となっている。なお、通信I/F74を介して、店舗内ネットワークN1に接続可能な構成としてもよい。

40

【0056】

また、制御部71は、バス76を介して、記憶部75に接続されている。記憶部75は、Web上に公開されている各種情報（コンテンツ）を閲覧するためのWebブラウザの他、電子レシート管理サーバ4から電子レシートを受け取るための電子レシート対応プログラム75aと、受け取ったレシートデータを閲覧するための電子レシート閲覧プログラム75bとを記憶する。

【0057】

次に、本実施形態のシステムを構成する各部の動作について説明する。

50

【0058】

まず、POS端末1の制御部11がレシートデータ処理プログラム17aに従って動作することにより実行される電子レシート処理について、図6～図9を参照しつつ説明する。

【0059】

図6に示すように、POS端末1で実行されるレシートデータ処理プログラム17aは、レシートデータ生成手段として機能するレシートデータ生成部111と、出力手段として機能するレシートデータ出力部112とを含むモジュール構成となっている。実際のハードウェアとしては制御部11のCPUが記憶部17からレシートデータ処理プログラム17aを読み出して実行することにより上記各部がRAM上にロードされ、レシートデータ生成部111、レシートデータ出力部112がRAM上に生成されるようになっている。

10

【0060】

ここで、レシートデータ生成部111は、商品販売データ処理及びレシートの印字用データ（レシートデータ）の生成を主に行う、既存のアプリケーションに対応する機能部である。レシートデータ生成部111は、コードスキャナ15を介して商品を特定する商品コードを取得すると、その商品コードに対応する商品データを商品データファイルから読み出し、この商品データが含む単価に基づいて決済金額を算出する商品販売データ処理を実行する。そして、レシートデータ生成部111は、商品販売データ処理の際に処理された商品販売データ、つまり、その商品の取引内容を含むレシートデータを生成する。

20

【0061】

また、レシートデータ生成部111は、一取引中の何れかのタイミングにおいて、コードスキャナ15を介して顧客（受取先）を特定する会員コード（受取先コード）を取得すると、その会員コードを含むレシートデータを生成する。なお、受取先コードは、会員コードに限るものではなく、受取先を識別できる識別コードであればよい。

【0062】

図7は、レシートデータの一例を模式的に示す図である。ここで、レシートデータは、非構造化形式のテキストデータ等であって、プリンタ13での印字に用いられるものである。図7に示すように、レシートデータは、上述した商品販売データD1や会員コードD2の要素を含んでいる。ここで、商品販売データD1は、決済の対象となった商品の商品名（商品コード）とその金額、各商品の合計金額、顧客が支払った預かり金額、お釣り金額等を有する。

30

【0063】

また、レシートデータは、取引日時D7、取引ナンバー（レシートナンバー）D8、レジナンバーD9、担当者名D10等の要素を含む。なお、レシートデータに含まれる要素は、図7の例に限らず、店舗を運営する企業を示す企業コード（企業名）、店舗コード（店舗名）、店舗の電話番号、住所、業種・業態コード等の他の要素を含んでもよい。

【0064】

また、レシートデータ生成部111は、締めキーの押下を受け付けると、一取引分の商品販売データ処理が完了したと判断し、生成したレシートデータをカットコマンドとともにレシートデータ出力部112に出力（発行）する。ここで、カットコマンドは、一般的に用いられるプリンタ制御コマンドの一つであって、レシートデータを印字する用紙のカット（切断）を指示する指示情報である。なお、レシートデータの生成は、締めキーの押下に伴い一括して生成してもよいし、商品コードや顧客コードを取得する毎に順次生成する形態としてもよい。

40

【0065】

レシートデータ出力部112は、レシートデータ生成部111で一取引分のレシートデータが生成される毎に、当該レシートデータの出力先を決定する。より詳細には、レシートデータ出力部112は、レシートデータ生成部111でカットコマンドが発行されると、一取引分のレシートデータが生成されたと判断する。そして、レシートデータ出力部1

50

12は、生成されたレシートデータに会員コードが含まれるか否かを判定し、その判定結果に応じて定まる出力先にレシートデータを出力する。

【0066】

具体的に、レシートデータ出力部112は、レシートデータに会員コードが含まれないと判定した場合、そのレシートデータをカットコマンドとともにプリンタ13に出力する。これにより、プリンタ13では、レシートデータを用紙に印字した後、カットコマンドに従いその用紙を切断することで、一取引分の紙レシートを印字出力する。なお、印字出力の際には、レシートデータを構成する全ての要素を印字してもよいし、会員コード等を取り除いたり、広告等の他の情報を付加した状態で印字してもよい。

【0067】

また、レシートデータ出力部112は、レシートデータに会員コードが含まれると判定した場合、レシートデータスキーマ17cの変換規則に従い、そのレシートデータを所定のデータ形式に変換する。そして、レシートデータ出力部112は、データ形式を変換したレシートデータ、つまり電子レシートを、企業コードに応じた企業単位で管理する電子レシートサーバ3に送信(出力)する。

【0068】

ここで、図8は、電子レシートの一例を模式的に示す図である。図8に示すように、電子レシートは、XML、CSV、JSON(JavaScript(登録商標) Object Notation)等の構造化形式のデータ(構造化文書)で構成される。なお、図8では、図7に示したレシートデータの各要素(D1~2、D7~D10)を、JSON形式に変換した例を示している。

【0069】

レシートデータから電子レシートへの変換は、レシートデータスキーマ17cに記述された変換規則に基づき行われる。具体的に、レシートデータスキーマ17cには、レシートデータを構成する所定の要素と、その要素の属性を示す属性情報(タグ等)とが定義されている。レシートデータ出力部112は、レシートデータの各要素を対応する属性情報を用いて構造化することで、図8に示すような構造化形式の電子レシートを生成する。このような、構造化形式の電子レシートとすることで、当該電子レシートに含まれる要素を効率的に利用することができるため、データ管理の上で様々な利点を得ることができる。

【0070】

このように、レシートデータ出力部112は、レシートデータ生成部111によるカットコマンドの発行により、一取引分のレシートデータが生成されたことを判断し、当該レシートデータの出力を開始する。これにより、レシートデータ生成部111から、一取引の終了を指示するための専用信号をレシートデータ出力部112に通知する必要もないため、既存のアプリケーションに対応するレシートデータ生成部111については、特段の変更を行わずに、一取引分のレシートデータの出力をレシートデータ出力部112で行うことができる。また、レシートデータ生成部111の変更部分を抑えることができるため、既存のアプリケーションを効率的に流用しつつ、電子レシートの出力機能を実現させることができる。

【0071】

また、レシートデータ出力部112は、レシートデータに会員コードが含まれるか否かに応じて、当該レシートデータの出力先を決定する。これにより、紙レシートの要否情報を顧客毎に用意することなく、紙レシート又は電子レシートの出力を行うことができるため、レシートデータの出力先を効率的に決定することができる。また、例えば、顧客(会員)は、取引毎に会員コードを入力又は非入力とすることで、紙レシート又は電子レシートの出力を選択することができるため、顧客の利便性を向上させることができる。

【0072】

さらに、レシートデータ出力部112は、レシートデータを電子レシートサーバ3に出力する場合に、当該レシートデータに含まれる要素を構造化した電子レシートに変換し、当該電子レシートを出力する。これにより、電子レシートに含まれる要素を効率的に利用

10

20

30

40

50

することができるため、当該電子レシートを管理する電子レシートサーバ3及び電子レシート管理サーバ4や、当該電子レシートの表示を行う携帯端末7において、電子レシートの利便性を向上させることができる。

【0073】

図9は、POS端末1における電子レシート処理の流れを示すフローチャートである。まず、POS端末1のレシートデータ生成部111は、コードスキャナ15により、商品に付されたコードシンボル(商品コード)又は携帯端末7に表示されたコードシンボル(会員コード)が読み取られたか否かを判定する(ステップS11)。コードシンボルの読み取りが行われない場合(ステップS11; No)、レシートデータ生成部111は、ステップS16に移行する。

10

【0074】

一方、レシートデータ生成部111は、コードシンボルが読み取られたと判定すると(ステップS11; Yes)、その読み取りにより取得した情報が、商品コードか会員コードかを判別する(ステップS12)。

【0075】

ステップS12で、商品コードを取得した場合(ステップS12; 商品コード)、レシートデータ生成部111は、その商品コードで特定される商品について、商品データファイルから商品データを読み出すと、この商品データが含む単価に基づいて決済金額を算出する商品販売データ処理を実行する(ステップS13)。次いで、レシートデータ生成部111は、商品販売データ処理の際に処理された商品販売データを含むレシートデータを生成する(ステップS14)。

20

【0076】

また、ステップS12で会員コードを取得した場合(ステップS12; 会員コード)、レシートデータ生成部111は、その会員コードを含むレシートデータを生成する(ステップS15)。

【0077】

ここで、会員コードをPOS端末1に入力するためには、例えば、会員である顧客が携帯端末7の表示部73に会員コード等を含むコードシンボルを表示し、店員または会員である顧客自らがPOS端末1のコードスキャナ15で読み取る。なお、レシートデータ生成部111は、一取引の間に入力される会員コードが唯一となるよう排他処理等を施す形態としてもよい。

30

【0078】

続くステップS16において、レシートデータ生成部111は、締めキーの押下等により締め処理の開始が指示されたか否かを判定する(ステップS16)。締め処理の開始が指示されない場合(ステップS16; No)、ステップS11に戻る。締め処理の開始が指示された場合に(ステップS16; Yes)、ステップS12で会員コードを取得している場合には(ステップS17; Yes)、ステップS12で取得した会員コードを電子レシート管理サーバ4に送信して、会員コードに対応付けられた優先すべき決済手段(例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど)および識別コードを問い合わせる(ステップS18)。

40

【0079】

レシートデータ生成部111は、電子レシート管理サーバ4から会員コードに対応付けられた優先すべき決済手段(例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど)および識別コードによる決済承認の応答があった場合(ステップS19; Yes)、決済承認された決済手段による締め処理(決済処理)を実行する(ステップS20)。

【0080】

一方、レシートデータ生成部111は、電子レシート管理サーバ4から会員コードに対応付けられた優先すべき決済手段(例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど)および識別コードによる決済承認の応答がなかった場合(ステップS1

50

9 ; N o)、現金による締め処理（決済処理）を実行する（ステップ S 2 1）。ステップ S 1 2 で会員コードを取得していない場合にも（ステップ S 1 7 ; Y e s）、レシートデータ生成部 1 1 1 は、現金による締め処理（決済処理）を実行する（ステップ S 2 1）。

【 0 0 8 1 】

締め処理（決済処理）の実行後、レシートデータ生成部 1 1 1 は、決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示す一取引分のレシートデータを生成する（ステップ S 2 2）。なお、レシートデータ生成部 1 1 1 は、決済承認された決済手段による締め処理（決済処理）を実行した場合には、決済手段による決済処理の証であって決済手段ごとに設定された書式の決済伝票データ（お客様控え）もレシートデータとして生成する。

【 0 0 8 2 】

次いで、レシートデータ生成部 1 1 1 は、カットコマンドをレシートデータ出力部 1 1 2 に発行（出力）する（ステップ S 2 3）。

【 0 0 8 3 】

レシートデータ出力部 1 1 2 は、レシートデータ生成部 1 1 1 からカットコマンドを受け付けると、一取引分のレシートデータが生成されたと判断し、そのレシートデータに会員コードが含まれるか否かを判定する（ステップ S 2 4）。

【 0 0 8 4 】

レシートデータに会員コードが含まれない場合（ステップ S 2 4 ; N o）、レシートデータ出力部 1 1 2 は、一取引分のレシートデータをカットコマンドとともにプリンタ 1 3 に出力することで、当該レシートデータを印字出力し（ステップ S 2 5）、本処理を終了する。これにより、プリンタ 1 3 では、レシートデータを用紙に印字した後、カットコマンドに従いその用紙を切断することで、一取引分の紙レシートを印字出力する。

【 0 0 8 5 】

なお、決済承認された決済手段による締め処理（決済処理）を実行した場合には、決済手段による決済処理の証であって決済手段ごとに設定された書式の決済伝票データ（お客様控え）も印字出力する。

【 0 0 8 6 】

一方、レシートデータに会員コードが含まれる場合（ステップ S 2 4 ; Y e s）、レシートデータ出力部 1 1 2 は、非構造化形式であるレシートデータのデータ形式を、構造化形式に変換することで電子レシートを生成する（ステップ S 2 6）。

【 0 0 8 7 】

なお、決済承認された決済手段による締め処理（決済処理）を実行した場合には、決済手段による決済処理の証であって決済手段ごとに設定された書式の決済伝票データ（お客様控え）のデータ形式も、構造化形式に変換することで電子レシートとする。

【 0 0 8 8 】

そして、レシートデータ出力部 1 1 2 は、通信 I / F 1 6 を介して生成した電子レシートを電子レシートサーバ 3 に送信し（ステップ S 2 7）、本処理を終了する。

【 0 0 8 9 】

なお、上記の処理ではレシートデータに会員コードが含まれる場合、当該レシートデータを電子レシートサーバ 3 に出力する形態としたが、これに限らず、プリンタ 1 3 及び電子レシートサーバ 3 の両方に出力してもよい。

【 0 0 9 0 】

また、レシートデータに会員コードが含まれる場合には、そのレシートデータの出力先を選択可能な構成としてもよい。例えば、携帯端末 7 は表示するコードシンボルに、レシートデータの出力先を指定する出力区分情報を保持させ、この出力区分情報に基づいて出力先を選択する形態としてもよい。この形態の場合、レシートデータ生成部 1 1 1 は、コードスキャナ 1 5 が読み取った出力区分情報を、会員コードとともにレシートデータに含める。そして、レシートデータ出力部 1 1 2 は、レシートデータに会員コードが含まれると判定し、且つ出力区分情報が存在すると判定した場合、その出力区分情報に基づいてレシートデータの出力先を決定する。なお、出力区分情報には、プリンタ 1 3 及び電子レシ

10

20

30

40

50

ートサーバ3の何れか一方、又は両方を指定することが可能である。

【0091】

また、商品の決済時にレシートデータの出力先をその都度選択させる形態としてもよい。この形態を用いる場合、例えば、レシートデータ出力部112は、レシートデータに会員コードが含まれると判定した場合に、レシートデータの出力先を選択するための出力先選択画面を表示部14に表示する。

【0092】

なお、選択画面の表示は、オペレータ用ディスプレイ14aに限らず、客用ディスプレイ14bに表示してもよい。また、客用ディスプレイ14bがタッチパネル構成の場合には、顧客自身が出力先を選択する形態としてもよい。

【0093】

また、商品販売データ処理の処理中において、顧客にレシートデータの出力先を確認する形態としてもよく、この形態を用いる場合、レシートデータ生成部111が、出力先選択画面等を表示部14に表示し、操作された操作子に対応する出力先を出力区分情報としてレシートデータに含める。そして、レシートデータ出力部112は、レシートデータに会員コード及び出力区分情報が含まれると、その出力区分情報に基づいてレシートデータの出力先を決定する。

【0094】

このように、レシートデータ出力部112は、レシートデータに会員コードが含まれる場合に、そのレシートデータの出力先を自動で選択、或いは当該出力先の手動による選択を受け付ける。これにより、出力先の決定方法を柔軟に切り替えることができるため、レシートデータの出力先を効率的に決定することができる。

【0095】

次に、電子レシートサーバ3の制御部31が、電子レシート管理プログラム33bに従って動作することにより実行される電子レシート管理処理及び情報送信プログラム33cに従って動作することにより実行される情報送信処理の流れを、図10に示すフローチャートを参照しつつ説明する。

【0096】

電子レシートサーバ3の制御部31は、POS端末1から送信された電子レシートを通信I/F32を介して受信すると(ステップS31; Yes)、記憶部33の電子レシート管理領域33aに企業毎の電子レシートとして記憶する(ステップS32)。そして、電子レシートサーバ3の制御部31は、ステップS32で記憶した電子レシートを電子レシート管理サーバ4に送信し(ステップS33)、ステップS31に戻る。

【0097】

また、電子レシートサーバ3の制御部31は、予め設定された送信タイミングになると(ステップS31; No ステップS34; Yes)、電子レシート管理領域33aに記憶して管理されている電子レシートを電子レシート管理サーバ4に送信し(ステップS35)、ステップS31に戻る。このステップS35の送信により、例えばステップS33で送信の対象から漏れた電子レシートを、電子レシート管理サーバ4に送信することができる。なお、ステップS35では、未送信の電子レシートのみを送信するよう制御してもよい。

【0098】

次に、電子レシート管理サーバ4の制御部41が、電子レシート管理プログラム43cに従って動作することにより実行される電子レシート管理処理及び情報送信プログラム43dに従って動作することにより実行される商品情報送信処理の流れを、図11に示す機能ブロック図及び図12に示すフローチャートを参照しつつ説明する。

【0099】

図11に示すように、電子レシート管理サーバ4で実行される電子レシート管理プログラム43c及び情報送信プログラム43dは、受信手段として機能する受信部411、記憶手段として機能する電子レシート管理部412、電子レシート出力手段として機能する

10

20

30

40

50

電子レシート送信部 4 1 3、コード受信手段として機能する会員コード受信部 4 1 4、選択手段として機能する選択部 4 1 5、問い合わせ手段として機能する問い合わせ部 4 1 6、送信手段として機能する送信部 4 1 7を含むモジュール構成となっている。実際のハードウェアとしては制御部 4 1 の CPU が記憶部 4 3 から電子レシート管理プログラム 4 3 c 及び情報送信プログラム 4 3 d を読み出して実行することにより上記各部が RAM 上にロードされ、受信部 4 1 1、電子レシート管理部 4 1 2、電子レシート送信部 4 1 3、会員コード受信部 4 1 4、選択部 4 1 5、問い合わせ部 4 1 6、送信部 4 1 7 が RAM 上に生成されるようになっている。

【 0 1 0 0 】

会員コード受信部 4 1 4 は、商品販売データ処理に係る決済処理に際して買物客（消費者）の会員コードを受信する。

10

【 0 1 0 1 】

選択部 4 1 5 は、会員コード受信部 4 1 4 で受信した会員コードに予め対応付けられている決済手段（例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど）を選択する。より詳細には、選択部 4 1 5 は、会員マスタ管理領域 4 3 b に記憶される会員マスタを参照して、会員コード受信部 4 1 4 で受信した会員コードに予め対応付けられている決済手段の中から最も優先順位の高い決済媒体（例えば、クレジットカード）を選択する。また、選択部 4 1 5 は、会員マスタ管理領域 4 3 b に記憶される会員マスタを参照して、優先順位の高い決済媒体（例えば、クレジットカード）に対応付けられている 1 または複数の媒体種別（例えば、クレジット会社 A、クレジット会社 B、クレジット会社 C、・・・）の中から最も優先順位の高い媒体種別（例えば、クレジット会社 A）を選択する。

20

【 0 1 0 2 】

問い合わせ部 4 1 6 は、選択した決済手段に対応する所定の決済センター P 4 に設けられる決済サーバ 5 に決済の承認を問い合わせる。

【 0 1 0 3 】

送信部 4 1 7 は、決済センター P 4 に設けられる決済サーバ 5 に問い合わせた結果として決済が承認された場合、決済承認された旨を会員コード受信部 4 1 4 で受信した当該会員コードの送信先に送信する。

【 0 1 0 4 】

受信部 4 1 1 は、決済承認された決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示すレシートデータに関連する構造化形式の電子レシート（電子レシート情報）を、電子レシートサーバ 3 から受信する。電子レシートは、店舗を運営する企業を示す企業コードを含み、商品販売データ処理の際に印字発行されるレシートあるいは領収書に代えて電子的に処理した企業単位の電子レシートである。

30

【 0 1 0 5 】

また、受信部 4 1 1 は、選択部 4 1 5 で選択された決済手段による決済処理の証である決済伝票データに関連する構造化形式の電子レシートを、電子レシートサーバ 3 から受信する。

【 0 1 0 6 】

電子レシート管理部 4 1 2 は、受信部 4 1 1 により受信した企業単位の電子レシートを記憶部 4 3 の電子レシート管理領域 4 3 a に記憶して管理する。

40

【 0 1 0 7 】

電子レシート送信部 4 1 3 は、所定の買物客の会員コードに対応付けられた携帯端末 7 に対し、当該会員コードに対応付けられていて少なくとも 1 以上の企業コードを含む電子レシートを電子レシート管理領域 4 3 a から取得して送信（出力）する。

【 0 1 0 8 】

なお、電子レシート送信部 4 1 3 は、同一取引に係るレシートデータと決済伝票データとを単一の電子レシートとして送信（出力）するようにしても良い。また、電子レシート送信部 4 1 3 は、同一取引に係るレシートデータと決済伝票データとをそれぞれ別の電子

50

レシート情報として送信（出力）するようにしても良い。

【0109】

図12に示すように、電子レシート管理サーバ4の会員コード受信部414は、商品販売データ処理に係る決済処理に際して買物客（消費者）の会員コードを通信I/F42を介して受信したか否かを判断する（ステップS41）。

【0110】

決済処理に際して買物客（消費者）の会員コードを受信した場合（ステップS41；Yes）、電子レシート管理サーバ4の選択部415は、会員マスタ管理領域43bに記憶される会員マスタを参照して、決済手段を選択する（ステップS42）。ステップS42においては、例えばクレジット会社Aにおけるクレジット決済が決済手段として選択される。

10

【0111】

次いで、電子レシート管理サーバ4の問い合わせ部416は、選択した決済手段に対応する所定の決済センターP4に設けられる決済サーバ5に決済の承認を問い合わせる（ステップS43）。

【0112】

決済センターP4に設けられる決済サーバ5に問い合わせた結果として決済が承認された場合（ステップS44のYes）、電子レシート管理サーバ4の送信部417は、決済承認された旨を会員コード受信部414で受信した当該会員コードの送信先に送信する（ステップS45）。

20

【0113】

一方、決済センターP4に設けられる決済サーバ5に問い合わせた結果として決済が承認されなかった場合（ステップS44のNo）、ステップS42に戻り、電子レシート管理サーバ4の選択部415は、会員マスタ管理領域43bに記憶される会員マスタを参照して、別の決済手段を選択する。ここで、別の媒体種別がある場合には、次に優先順位の高い媒体種別（例えば、クレジット会社B）を選択する。別の媒体種別がない場合には、次に優先順位の高い決済媒体（例えば、デビットカード）を選択する。

【0114】

一方、図12に示すように、電子レシート管理サーバ4の受信部411は、各企業の電子レシートサーバ3から送信された電子レシートを、通信I/F42を介して受信したか否かを判断する（ステップS46）。

30

【0115】

電子レシートを受信した場合（ステップS46；Yes）、電子レシート管理サーバ4の電子レシート管理部412は、記憶部43の電子レシート管理領域43aに各種企業の電子レシートを記憶する（ステップS47）。

【0116】

続いて、電子レシート送信部413は、ステップS47で記憶した電子レシートを、当該電子レシートの会員コードに対応付けて管理されている送信先（携帯端末7）に送信し（ステップS48）、ステップS41に戻る。

【0117】

また、電子レシート管理サーバ4の電子レシート送信部413は、携帯端末7から電子レシート照会があった場合（ステップS49；Yes）、電子レシート管理領域43aに記憶して管理されている電子レシートを、電子レシート照会の内容に従って抽出する（ステップS50）。

40

【0118】

続いて、電子レシート送信部413は、抽出した電子レシートを、当該電子レシートの会員コードに対応付けて管理されている送信先（携帯端末7）に送信し（ステップS51）、ステップS41に戻る。

【0119】

次に、携帯端末7の制御部71が、電子レシート対応プログラム75aに従って動作す

50

ることにより実行される電子レシート受け取り処理及び電子レシート閲覧プログラム75bに従って動作することにより実行される電子レシート閲覧処理の流れを、図13～図16を参照しつつ説明する。

【0120】

図13に示すように、携帯端末7で実行される電子レシート対応プログラム75a及び電子レシート閲覧プログラム75bは、会員対応付け部711、電子レシート受信部712、電子レシート表示部713を含むモジュール構成となっている。実際のハードウェアとしては制御部71のCPUが記憶部75から電子レシート対応プログラム75a及び電子レシート閲覧プログラム75bを読み出して実行することにより上記各部がRAM上にロードされ、会員対応付け部711、電子レシート受信部712、電子レシート表示部713がRAM上に生成されるようになっている。

10

【0121】

会員対応付け部711は、所定の買物客の会員コードを対応付ける。電子レシート受信部712は、電子レシート管理サーバ4から電子レシートを受信する。電子レシート表示部713は、電子レシート受信部712により受信した電子レシートを表示部73に表示する。

【0122】

図14に示すように、まず、携帯端末7の会員対応付け部711は、電子レシート管理サーバ4にアクセスして会員コード及びパスワードの入力によって認証処理を実行する(ステップS61)。これにより、携帯端末7と所定の買物客の会員コードとが対応付けられる。

20

【0123】

認証後、携帯端末7の電子レシート受信部712は、入力された当該会員コードに対応して電子レシート管理サーバ4の電子レシート管理領域43aに記憶され管理されている電子レシートを受信する(ステップS62)。なお、レシートデータの受信については、電子メールによって受信するものであってもよい。

【0124】

次に、携帯端末7の電子レシート表示部713は、電子レシート受信部712が受信した電子レシート等を表示部73に表示し(ステップS63)、処理を終了する。

【0125】

図15は、電子レシートG2の一例を模式的に示す図である。図15に示すように、電子レシートG2は、用紙に印字されるレシートと同様のレイアウトや内容で表示される。

30

【0126】

なお、電子レシートG2内において、操作部72の入力に追従するカーソルにより、取引された商品を示す商品a等にフォーカスを当てることができる。また、図15では、電子レシートG2内に、店名のロゴを表示する店名ロゴ部G21や、広告等を表示するバナー表示部G22等を設けた例を示している。

【0127】

レシートデータは、紙のレシートに代わるものであり、商品を購入したことを証明する電子的な商品購入証明情報となるものである。そこで、図15では、商品購入証明情報として提示する場合に使用するため、以下の情報を表示した例を示している。

40

- ・店舗名
- ・購入日時
- ・購入商品明細
- ・売上合計額
- ・レジナンバー
- ・取引ナンバー

【0128】

なお、複数のレシートデータを受信した場合には、レシートデータに含まれる購入日、企業コード等に基づいて、レシートデータの各々を選択可能な選択画面を表示してもよい

50

。この場合、電子レシート表示部 7 1 3 は、選択画面から選択されたレシートデータを表示部 7 3 に表示する。

【 0 1 2 9 】

さらに、図 1 6 は、電子レシート G 2 の一例を模式的に示す図である。図 1 6 に示すように、電子レシート G 2 は、用紙に印字される決済伝票と同様のレイアウトや内容で表示される。

【 0 1 3 0 】

なお、電子レシート G 2 である決済伝票データは、同一取引に係るレシートデータに連続して表示されるものであっても良いし、同一取引に係るレシートデータとは別に表示されるものであっても良い。

10

【 0 1 3 1 】

このように本実施形態の電子レシート管理サーバ 4 によれば、商品販売データ処理（商品取引データ処理）に係る決済処理に際して消費者の会員コード（受取先コード）に予め対応付けられている決済手段（例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど）を選択し、選択した決済手段に対応する所定の決済サーバに問い合わせた結果として決済が承認された場合、決済承認された旨を当該会員コードの送信先に送信するとともに、決済承認された決済処理に係る決済対象の商品の取引内容を示すレシートデータに関連する構造化形式の電子レシート情報を、会員コードに対応付けられた情報処理装置に対して出力することにより、決済処理の高速化を図ることができる。

20

【 0 1 3 2 】

なお、本実施形態においては、締め処理の開始が指示された場合に（ステップ S 1 6 ; Yes）、ステップ S 1 2 で会員コードを取得している場合には（ステップ S 1 7 ; Yes）、ステップ S 1 2 で取得した会員コードを電子レシート管理サーバ 4 に送信して、会員コードに対応付けられた優先すべき決済手段（例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど）および識別コードを問い合わせるようにした（ステップ S 1 8）。しかしながら、これに限るものではなく、ステップ S 1 8 において、POS 端末 1 から電子レシート管理サーバ 4 に対してステップ S 1 2 で取得した会員コードとともに企業コード（店舗を運営する企業の識別コード：取引先コード）を送信するようにしても良い。

30

【 0 1 3 3 】

この場合、電子レシート管理サーバ 4 の記憶部 4 3 には、企業コード（取引先コード）に対応付けて決済手段（例えば、クレジットカード、電子マネーカード、デビットカードなど）および媒体種別（例えば、クレジット会社 A、クレジット会社 B、クレジット会社 C、・・・）を記憶しておく。そして、電子レシート管理サーバ 4 の会員コード受信部 4 1 4 は、買物客（消費者）の会員コードおよび企業コード（取引先コード）を受信する。そして、電子レシート管理サーバ 4 の選択部 4 1 5 は、企業コード（取引先コード）に対応付けられた決済手段および媒体種別が記憶されているか判断し、対応付けられた決済手段および媒体種別があれば、その決済手段および媒体種別を優先的に選択し、決済処理に使用する。

40

【 0 1 3 4 】

例えば、コンビニエンスストアを運営する企業がクレジットカードを発行している場合には、当該コンビニエンスストアでの取引についてはこのクレジットカードを優先的に決済に使用することが可能になる。

【 0 1 3 5 】

以上、本発明の実施形態を説明したが、これらの実施形態は、例として提示したものであり、発明の範囲を限定することは意図していない。これらの実施形態は、その他の様々な形態で実施されることが可能であり、発明の要旨を逸脱しない範囲で、種々の省略、置き換え、変更、組み合わせを行うことができる。これら実施形態やその変形は、発明の範囲や要旨に含まれるとともに、特許請求の範囲に記載された発明とその均等の範囲に含まれる。

50

【 0 1 3 6 】

例えば、上記実施形態では、コードスキャナ 1 5 を用いて会員コード等を取得する形態としたが、これに限らず、他の手法を用いて会員コード等を取得してもよい。具体的には、N F C (Near Field Communication) や B l u e t o o t h (登録商標) 等の近距離無線通信部を P O S 端末 1 及び携帯端末 7 が備えることで、近距離無線通信により会員コード等を送受信可能な構成としてもよい。この場合、携帯端末 7 は、会員コード等を記憶部 7 5 や図示しない I C タグ等に保持するものとする。

【 0 1 3 7 】

また、上記実施形態では、携帯端末 7 から会員コード等を取得する形態としたが、これに限らず、I C カードや磁気カード等の会員コードを保持することが可能な媒体から取得してもよい。なお、I C カードを用いる場合には、P O S 端末 1 は、I C カードリーダーライタ等の読取/書込部を備えるものとする。また、磁気カードを用いる場合には、P O S 端末 1 は、磁気カードのカードリーダー/カードライタ等を備えるものとする。

10

【 0 1 3 8 】

また、上記実施形態では、本部 P 2 に電子レシートサーバ 3 を設ける形態としたが、これに限らず、店舗 P 1 内に、当該店舗用の電子レシートサーバ 3 を設ける形態としてもよい。この場合、P O S 端末 1 は、自店舗の店舗内ネットワーク N 1 に接続された電子レシートサーバ 3 に電子レシートを出力し、電子レシートサーバ 3 は、店舗内ネットワーク N 1 及びネットワーク N 2 を介して電子レシート管理サーバ 4 に電子レシートを送信する。

【 0 1 3 9 】

また、上記実施形態では、P O S 端末 1 で生成された電子レシートを、電子レシートサーバ 3 を介して電子レシート管理サーバ 4 に出力する形態としたが、これに限らず、P O S 端末 1 からネットワーク N 3 を介して電子レシート管理サーバ 4 にアクセスすることで、電子レシート管理サーバ 4 に電子レシートを直接出力する形態としてもよい。

20

【 0 1 4 0 】

また、上記実施形態では、携帯端末 7 は、電子レシート管理サーバ 4 を介して電子レシートを受信する形態としたが、これに限らず、P O S 端末 1 から電子レシートを直接受信する形態としてもよい。この場合、P O S 端末 1 は、店舗内ネットワーク N 1 や図示しない近距離無線通信部を介して接続された携帯端末 7 に対し、生成した電子レシートを出力する。また、この場合、P O S 端末 1 で認証処理を行ってもよい。

30

【 0 1 4 1 】

また、上記実施形態では、商品データファイルを P O S 端末 1 が記憶する形態としたが、これに限らず、ストアサーバ 2 が、P O S 端末 1 から参照可能に商品データファイルを記憶する形態としてもよい。

【 符号の説明 】

【 0 1 4 2 】

- 4 電子レシート管理サーバ
- 4 1 1 受信手段
- 4 1 2 記憶手段
- 4 1 3 電子レシート出力手段
- 4 1 4 コード受信手段
- 4 1 5 選択手段
- 4 1 6 問い合わせ手段
- 4 1 7 送信手段

40

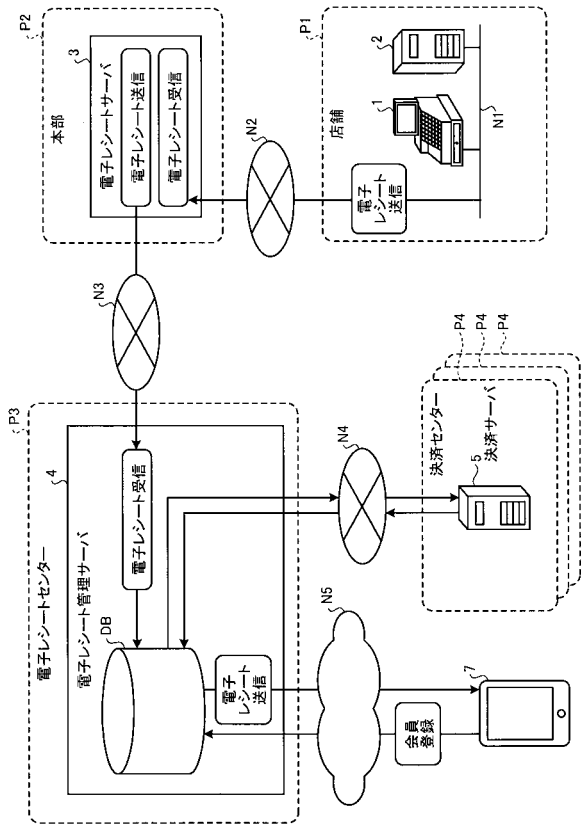
【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

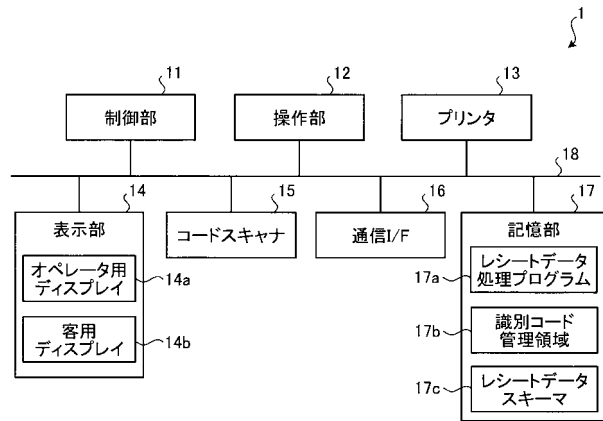
【 0 1 4 3 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 9 - 4 2 9 3 1 号 公 報

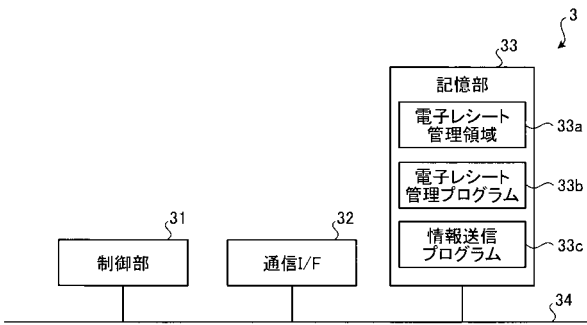
【図1】



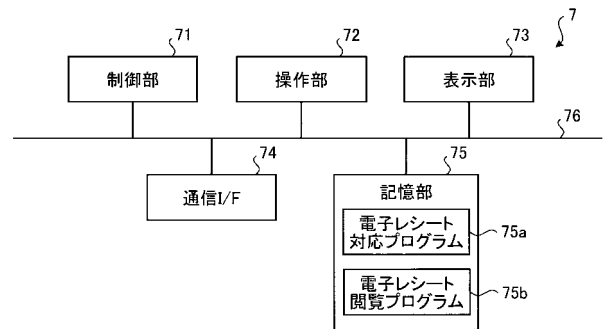
【図2】



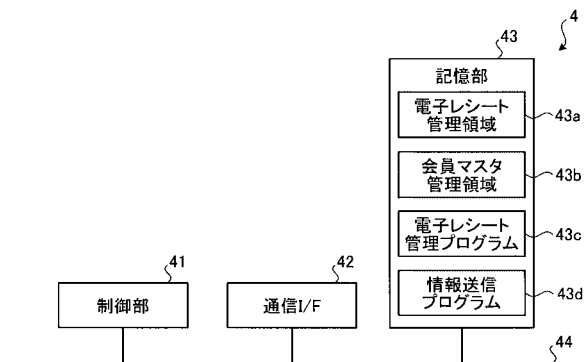
【図3】



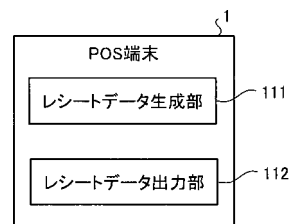
【図5】



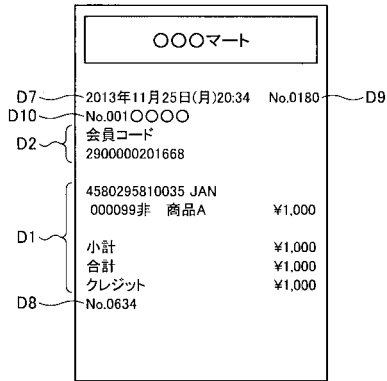
【図4】



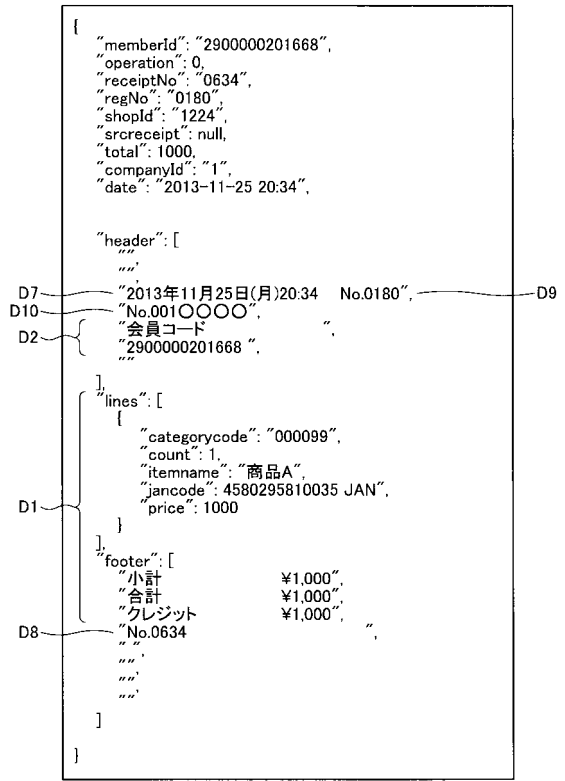
【図6】



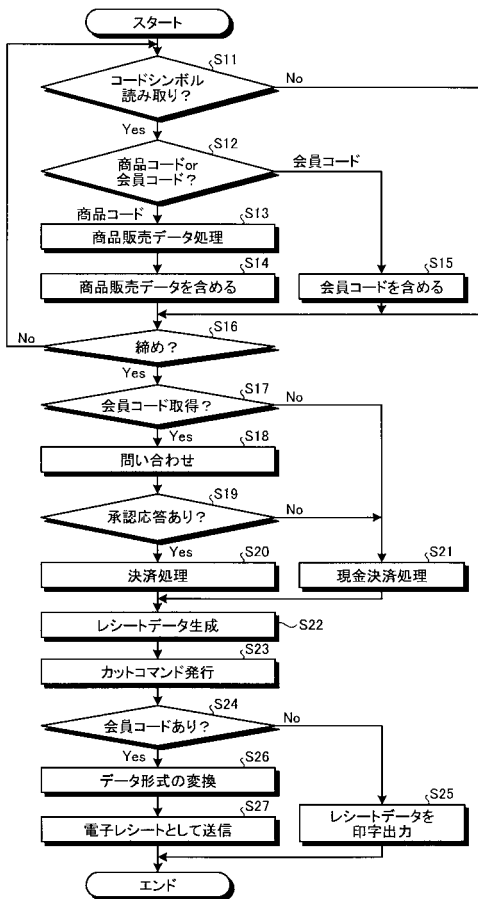
【 図 7 】



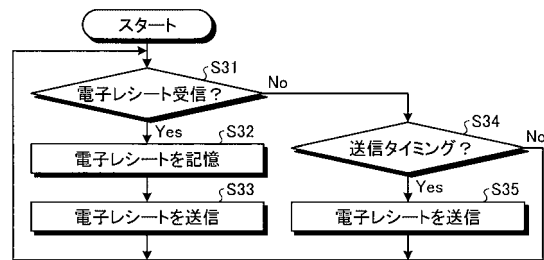
【 図 8 】



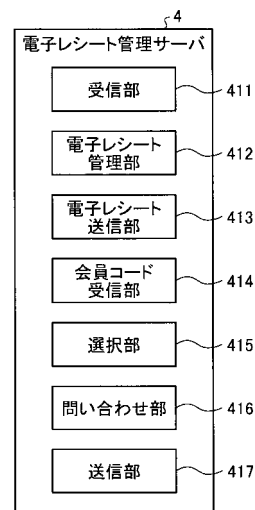
【 図 9 】



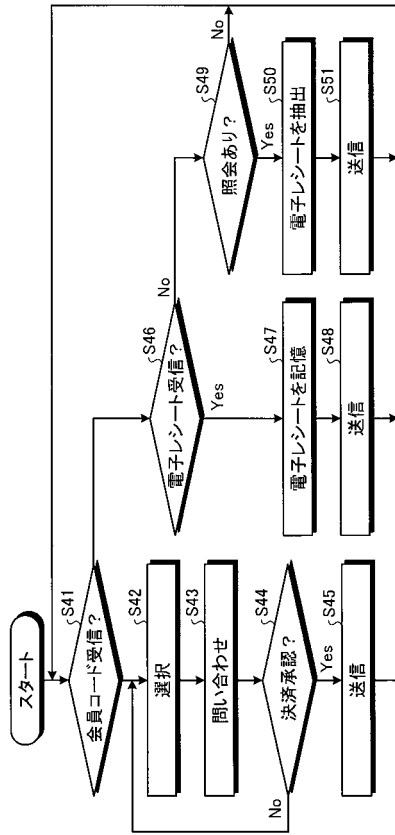
【 図 10 】



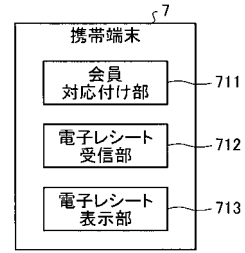
【 図 11 】



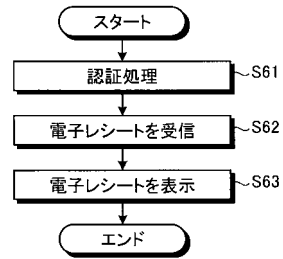
【図12】



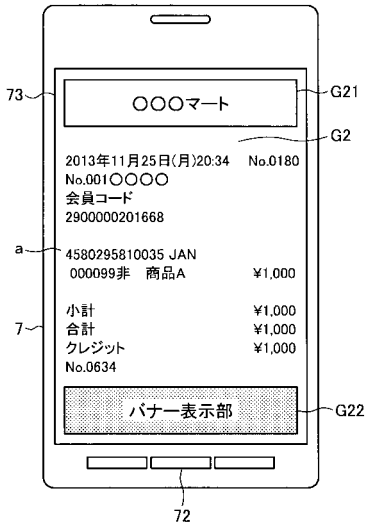
【図13】



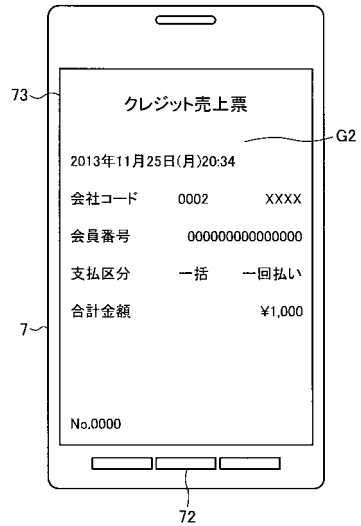
【図14】



【図15】



【図16】



【手続補正書】

【提出日】平成30年8月27日(2018.8.27)

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明の実施形態は、電子レシートシステムおよび電子レシート管理方法に関する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明が解決しようとする課題は、決済処理の高速化を図ることができる電子レシートシステムおよび電子レシート管理方法を提供することである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

実施形態の電子レシートシステムは、第1入力手段と、第2入力手段と、生成手段と、第1記憶手段と、決定手段と、問い合わせ手段と、作成手段と、第2記憶手段と、出力手段とを備える。前記第1入力手段は、顧客を特定するための顧客コードの入力を受け付ける。前記第2入力手段は、商品を特定するための商品コードの入力を受け付ける。前記生成手段は、前記第2入力手段が前記商品コードの入力を受け付けた場合に、当該商品コードにより特定される商品の取引内容が示された商品販売データを生成する。前記第1記憶手段は、前記顧客コードと、決済処理に用いる1以上の前記決済手段とを関連付けて記憶する。前記決定手段は、前記第1入力手段が受け付けた前記顧客コードに関連付けられた1以上の前記決済手段から前記決済処理に用いる決済手段を決定する。前記問い合わせ手段は、前記生成手段が生成した前記商品販売データに係る取引で、前記決定手段が決定した前記決済手段を用いた決済処理の承認を、当該決済手段に対応する決済サーバに問い合わせる。前記作成手段は、前記決済サーバが前記決済手段を用いた決済処理を承認した場合に、当該承認された取引に係る前記商品販売データと、当該決済処理の内容を示す決済情報とを含む電子レシート情報を作成する。前記第2記憶手段は、前記作成手段が作成した前記電子レシート情報を記憶する。前記出力手段は、前記第2記憶手段が記憶する前記電子レシート情報を、前記顧客コードに関連付けられた携帯端末に出力する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

顧客を特定するための顧客コードの入力を受け付ける第1入力手段と、商品を特定するための商品コードの入力を受け付ける第2入力手段と、前記第2入力手段が前記商品コードの入力を受け付けた場合に、当該商品コードにより特定される商品の取引内容が示された商品販売データを生成する生成手段と、

前記顧客コードと、決済処理に用いる 1 以上の決済手段とを関連付けて記憶する第 1 記憶手段と、

前記第 1 入力手段が受け付けた前記顧客コードに関連付けられた 1 以上の前記決済手段から前記決済処理に用いる前記決済手段を決定する決定手段と、

前記生成手段が生成した前記商品販売データに係る取引で、前記決定手段が決定した前記決済手段を用いた決済処理の承認を、当該決済手段に対応する決済サーバに問い合わせる問い合わせ手段と、

前記決済サーバが前記決済手段を用いた決済処理を承認した場合に、当該承認された取引に係る前記商品販売データと、当該決済処理の内容を示す決済情報とを含む電子レシート情報を作成する作成手段と、

前記作成手段が作成した前記電子レシート情報を記憶する第 2 記憶手段と、

前記第 2 記憶手段が記憶する前記電子レシート情報を、前記顧客コードに関連付けられた携帯端末に出力する出力手段と、

を備える電子レシートシステム。

【請求項 2】

前記第 2 記憶手段は、構造化形式の前記電子レシート情報を記憶する、

請求項 1 に記載の電子レシートシステム。

【請求項 3】

顧客を特定するための顧客コードの入力を受け付ける第 1 入力ステップと、

商品を特定するための商品コードの入力を受け付ける第 2 入力ステップと、

前記第 2 入力ステップで前記商品コードの入力を受け付けられた場合に、当該商品コードにより特定される商品の取引内容が示された商品販売データを生成する生成ステップと、

前記顧客コードと、決済処理に用いる 1 以上の決済手段とを関連付けて記憶する第 1 記憶ステップと、

前記第 1 入力ステップで受け付けられた前記顧客コードに関連付けられた 1 以上の前記決済手段から前記決済処理に用いる前記決済手段を決定する決定ステップと、

前記生成ステップで生成された前記商品販売データに係る取引で、前記決定ステップで決定された前記決済手段を用いた決済処理の承認を、当該決済手段に対応する決済サーバに問い合わせる問い合わせステップと、

前記決済サーバが前記決済手段を用いた決済処理を承認した場合に、当該承認された取引に係る前記商品販売データと、当該決済処理の内容を示す決済情報とを含む電子レシート情報を作成する作成ステップと、

前記作成ステップで作成された前記電子レシート情報を記憶する第 2 記憶ステップと、

前記第 2 記憶ステップで記憶された前記電子レシート情報を、前記顧客コードに関連付けられた携帯端末に出力する出力ステップと、

を含む電子レシート管理方法。